

7月のおすすめ本

『南極ではたらく かあちゃん、調理隊員になる』【分類 2205/7】

渡貫淳子/著 平凡社 2019年

フライパンを持ち、ペンギンたちと南極の白い大地の上を歩く著者が表紙に描かれています。一児の母である著者は一念発起して南極観測隊の調理隊員に応募、合格を果たし第57次南極地域観測隊に参加しました。南極へ行くまでの話、南極での暮らしや料理の仕事の話、日本へ帰還までの話等が書かれていて、終盤での「男性も女性もいて社会。だから、お互いの存在価値を認めて、自分ができることを尽くそう」という著者の言葉が心に残ります。家庭でも作れる「悪魔のおにぎり」をはじめとした南極リメイクレシピも掲載されています。

『山小屋ガールの癒されない日々』【分類 6102/3】

吉玉サキ/著 平凡社 2019年

仕事が続かずニートになってしまった著者は幼なじみに山小屋の仕事を紹介されます。一度登ったらシーズン中の数カ月を住込みで働き、登山客の食事や宿泊の世話をしたり、売店で販売したりの仕事です。食材や必要な物資の補給はどうしているのか、水道がないところで必要な水はどうしているのか、登山道の整備はだれがやっているのかとか“山小屋の謎”が読み進むにつれて判明してきます。夫や友人との出会いも山小屋の仕事がきっかけです。読んでいて楽しいけれど、考えさせられるところもあります。おすすめです。

『へいわとせんそう』【分類 6108/4】

たにかわしゅんたろう/ぶん Noritake/え ブロンズ新社 2019年

文を書いているのは、幅広い活躍している詩人谷川俊太郎さんです。小・中学校の国語の教科書などで、作品に触れたことがある方も多いのではないのでしょうか。また、絵を担当している Noritake さんはモノクロドローインを軸に作品を手掛けています。この絵本は平和の時と戦争の時とで、人や場面对比して描かれています。1ページ毎に、白と黒で表現されたイラストと一つの文章で進行していきます。文章が単純なので、とても簡単に読むことができるはずなのに、胸にせまります。特に、終盤のページは考えさせられるでしょう。大人も子どもも、是非、手に取って読んでいただきたい作品です。

福島県男女共生センター図書室 3階